

財務諸表の表示 ディスカッション・ポイント（意思確認項目）

ASBJの今年９月のプロジェクト計画表に基づき、論点整理に寄せられたコメントも踏まえ、「包括利益の表示」等に関する会計基準の公開草案の公表(今年１２月を目標)に向けて検討を行っている。

１．意思確認項目

①～③の順で意思確認を行う。

① 包括利益の表示を導入について

論点整理のコメントでも、短期的対応として包括利益の表示の導入を支持する意見が大多数であったことを踏まえ、早期に包括利益の表示を導入することでどうか。

<前提条件>

- ・早期に導入を図るため、現行の当期純利益の表示とリサイクリングを維持するとともに、支配継続時の持分変動に関する現行の会計処理を前提とする。

② 適用範囲について

上場会社において連結財務諸表を作成しない会社もあることなどから、包括利益の表示については、個別財務諸表と連結財務諸表の両方に適用することでどうか。

③ 包括利益の表示方法について

論点整理のコメントでは「２ 計算書方式」を支持する意見が大多数であったが、「１ 計算書方式」に利点を認める見方もあることや現行 IFRS(IAS 第 1 号)では「１ 計算書方式」と「２ 計算書方式」の選択が認められていることを踏まえ、短期的な対応としては、「１ 計算書方式」と「２ 計算書方式」の選択を認めることでどうか。

<前提条件>

- ・IASB や FASB では、金融商品会計基準の見直しにあわせて「１ 計算書方式」のみとする方向で検討が進められているが、2013 年頃の適用を想定していることや今後公表されると予想される公開草案を踏まえ最終的に判断するものと考えられるので、切り離して検討を進める。
- ・連結財務諸表における具体的な表示方法に関しては、親会社株主と少数株主のそれぞれに帰属する部分の表示の仕方には複数の案が考えられるが、どのように表示するのかは、引き続き検討する。

なお、適用時期については、現行の財務諸表からも集計することが可能であることも踏まえ、コンバージェンスを加速する観点から、公表から１年程度の準備期間とし、平成 23 年（2011 年）３月期の年度財務諸表から適用する方向で検討を進めることでどうか。

２．今後の審議予定

本日の委員会審議を踏まえて、１１月以降の委員会審議では公開草案の公表に向けた検討を予定している。なお、財務諸表表示専門委員会は、委員会での審議を踏まえ、１１月 9 日、１１月 24 日に開催し、審議を行う予定である。

以 上